

事業評価シート

番号 0640070 - 001

【1.基本情報】

事業名	大河ドラマ「麒麟がくる」を活用した地域活性化推進事業 (岐阜県大河ドラマ「麒麟がくる」推進協議会)				
担当部名	商工観光部	担当課名	大河ドラマ推進課		
未来地図政策	観光・交流の活性化			政策コード	3 - 4 - 0 - 0
実施方法	補助	補助の種類※	加入団体負担金	実施主体	岐阜県大河ドラマ「麒麟がくる」推進協議会
実施期間	平成30年度～	令和2年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	2020年大河ドラマ「麒麟がくる」の放送を契機に、本市を含めた岐阜県の魅力を全国に発信するとともに、放送開始に合わせて大河ドラマ館を中心とした周遊施策及びイベントによる誘客の促進、更には観光客の受入環境の整備等により、地域の活性化と観光消費の増大を図る。				
事業の内容	大河ドラマ「麒麟がくる」の主人公である明智光秀公ゆかりの県内市町と県等と協議会を組織し、①情報発信(ホームページの開設、PRパンフレットの制作・配布、雑誌への記事掲載等)、②イベント、旅行商品造成等による誘客促進、③受入環境の整備(大河ドラマ館を中心とした周遊施策や既存の観光資源を活用した周遊施策の造成、モデルコースの提案等)に係る取組を行う。				
事業の対象	何を	大河ドラマ館及び岐阜市の観光資源			
	誰に (対象者・対象者数)	岐阜市民、観光客等(大河ドラマ館入館者数:目標50万人)			
	どのくらい (具体的数値で)	令和2年1月～令和3年1月の1年間			
平成30年度 (実施内容)	①稲葉山城ゾーン(岐阜城・金華山一帯をいう。)のビジョン構築に向けた検討 ②大河ドラマや明智光秀公にちなんだ土産物、グルメ等の開発検討 ③PRパンフレット、幟等の作成、④イベント等におけるPR、⑤講演会及び勉強会の開催 など				

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成28年度決算額		平成29年度決算額		平成30年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	0		0		4,121	130
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	0	0	0	0	4,121	130

(2)物にかかるコスト

	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)
直接経費 【直接事業費】 (B)			700
直接事業費の主な内訳	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)
項目	負担金		700
減価償却費 【施設管理】※ (C)	平成28年度額(千円)	平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)
計(D)=B+C	0	0	700

(3)総コスト

	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)
総事業費(E) =A+D	0	0	4,821

【4.収入】

収入内訳	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)
市負担額一般 財源(E-F)	0	0	4,821

【6.コストバランス】

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業受益者			岐阜市民、観光客等
受益者数			
受益者負担額(千円)			
受益者負担率(%)			
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)			

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	岐阜県大河ドラマ「麒麟がくる」推進協議会負担金	単位	千円
	平成28年度	平成29年度	平成30年度
目標値			700
実績値			700

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	イベント、商談会等の開催又は参加回数	単位	回
	平成28年度	平成29年度	平成30年度
目標値			6
実績値			6

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	本協議会の事業は、令和2年1月の大河ドラマ館のオープンに向けて、県内の関係団体と連携して行う情報発信、誘客促進等に係る取組であり、必要性は非常に高い。 本事業は、大河ドラマを契機とした地域の観光資源のブラッシュアップ、市民のシビックプライドの醸成等に寄与するものであり、本市の観光施策を推進する上でも必要不可欠なものである。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	岐阜県及び構成市町が負担金を拠出し、共同してPR等の事業を実施しており、費用対効果は高い。 事業の実施に当たっては、本協議会を構成する地方公共団体のみならず、観光協会、民間事業者等とも協議を重ね、連携しながら実施している。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	広域連携による誘客促進であり、有効性は非常に高い。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	本協議会の構成市町の負担割合は、概ね同水準であり、公平性は保たれている。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	本事業は、必要性、効率性、有効性及び公平性のいずれも評価が高く、令和2年1月の大河ドラマ館のオープンに向け、継続して実施していく。